

327-178

東宮殿下 行啓記念 勤王諸士遺墨帖人名略傳

中原邦平著

明治 43. 2. 5 丙午

贈正二位毛利敬親

初^ハ文^ノ猷^ヲ之進ト稱シ、教明ト名ク、字ハ子常、誠齊ト號ス、又綠竹、自在庵、春雨等ノ別號アリ、文政二年二月十五日江戸麻布邸ニ生ル、從四位上左近衛權少將齊元ノ第一子ナリ、天保八年四月從四位下左近衛權少將齊廣^{サト}ノ後ヲ承ケテ、防長ノ藩主ト爲リ、大膳大夫ト稱ス、敬親襲封ノ初ヨリ、財政ヲ整理シ、文武ヲ振興シ、以テ富國強兵ノ基ヲ立ツ、嘉永癸丑以來勤王ノ事ニ執掌シ、百難ヲ排シテ、遂ニ克ク維新ノ鴻業ヲ翼贊ス、明治四年四月十日薨ズ、年五十三、天皇震悼

從一位ヲ贈リ、誅ヲ賜フテ曰ク、首唱勤王、回皇運于既衰、贊大政于更始、維忠維義、洵是國家柱石、厥功厥績、實爲藩翰儀型ト、明治三十四年五月十六日天皇又其功ヲ追褒シ、更ニ正一位ヲ贈ラル。

贈正四位村田清風

清風初メ四郎左衛門ト稱シ、後織部ト改メ、松齋又嘯雨ト號ス、識見卓偉、經綸ノ才ニ富ム、夙ニ外寇ノ漸アルヲ洞看シ、富國強兵ヲ以テ其志トナス、毛利敬親初政ノ改革ハ實ニ清風ノ參畫ニ成ル、弘化元年職ヲ罷メ、郷里ニ歸隱シ、後進ヲ誘掖スルヲ以テ自ラ任ズ、安政二年敬親又改革ノ政ヲ行ハント欲シ、再ビ清風ヲ起シテ顧問トナス、其年老ヒタルテ以テ、特ニ乘輿城ニ上リ、殿中杖ヲ用フルヲ許ス、清風其恩遇ノ優ナルニ感シ、奮然トシテ報效ヲ圖ル、未ダ幾

ナラズ、病ンデ歿ス、一藩之ヲ惜ム、時ニ安政二年五月廿五日ナリ、享年七十二。

贈從四位青木周弼

周弼ハ周防國大島郡ノ人、蘭學ニ邃ク、醫術ニ精シ、坪井信道、緒方弘庵ト共ニ醫界ノ三傑ト稱セラル、毛利敬親擢ンデ、侍醫ト爲シ、藩内ノ醫學ヲ董督シ、傍ラ外國ノ事情ヲ研究セシム、毛利氏ガ夙ニ西洋ノ文物ヲ輸入シタルハ、周弼ノ功多キニ居ル、文久三年十二月没ス、年六十一。

贈正四位妙圓寺月性

月性字ハ知圓、清狂ト號ス、周防國大島郡遠崎村一向宗妙圓寺ノ住職ナリ、夙ニ尊攘ノ志ヲ抱キ、弘ク天下ノ志士ト交リ、頻リニ海防ヲ論ズ、人呼ンデ海防僧ト曰フ、嘗テ曰ク、外夷邪教ヲ以テ民心ヲ誘惑ス、我ハ吾ガ鸞教ヲ以テ民心

ヲ固結スベシト、其法ヲ説ク、先ヅ其意ヲ以テシ、大聲疾呼
尊攘ノ大義ヲ鼓吹ス、聞ク者感奮セザルハナシ、安政戊午
ノ春天朝事アリ、本願寺法主書ヲ發シテ月性ヲ召ス、而シ
テ月性暴ニ病ンデ死ス、時ニ安政五年五月十九日ナリ、年
四十二。

贈正四位吉田寅次郎

初メ大次郎ト稱ス、名ハ矩方、字ハ義卿、松陰ト號シ、又二十
一回猛士ト稱ス、夙ニ皇威ノ不振ヲ慨シ、尊攘ノ大義ヲ鼓
吹ス、其誠孚人ヲ感動ス、一藩ノ士氣之レガ爲メニ奮起ス、
安政六年江戸ニ檻送セラレ、十月二十七日傳馬町ノ獄ニ
斬ラル、年三十、其傳人口ニ膾炙ス。

贈正四位佐久間佐兵衛

初メ赤川淡水又直二郎ト稱ス、名ハ義濟、龍園又思齋ト號

ス、變稱ヲ彌村左門ト云フ、安政年間水戸ニ遊學シ、尊王ノ
志甚深シ、其後長藩ノ要路ニ在リテ、勤王ノ事ニ盡瘁ス、元
治甲子ノ變罪ヲ得テ藩獄ニ投ゼラレ、其十一月十二日斬
ニ處セララル、年三十二。

佐世八十郎

名ハ一誠、松處ト號ス、後前原彦太郎ト改ム、松陰門下知名
ノ士ナリ、慶應年間桂小五郎、廣澤兵助等ト共ニ藩ノ要路
ニ立テ、國事ニ鞅掌ス、明治維新ノ年參謀トシテ北越ニ出
征シ、其功頗ル多シ、尋デ越後府判事ト爲リ、累進參議ニ至
リ、又兵部大輔ニ任ゼラル、然レドモ時事意ノ如クナラズ、
勇退郷里ニ歸臥ス、明治九年國事犯ヲ以テ斬ニ處セララル、
年四十三。

贈正四位梁川新十郎

名ハ孟緯、字ハ公圖、星巖ト號ス、美濃國安八郡曾根村ノ人、京都ニ住シ、詩ヲ以テ名アリ、嘉永安政ノ間尊攘ノ議ヲ唱ヘ、賴三樹三郎、梅田源次郎等ト共ニ、國事ニ盡ス所アリ、安政五年間部下總守ノ京師ニ入ルヤ、詩數十篇ヲ贈リテ之ヲ直諫ス、幕吏其家ニ就テ逮捕セントス、其前夜暴カニ病ンデ死ス、或ハ曰ク、實ハ毒ヲ仰デ死セルナリト、時ニ安政五年九月三日、年七十。

贈正四位梅田源二郎

名ハ定明、雲濱ト號ス、若狹小濱ノ士ナリ、出デ、京師ニ住シ、帷ヲ下シテ徒ニ授ク、才學共ニ高シ、夙ニ四方尊攘ノ志士ト交リ、皇家ノ爲メ畫策スル所多シ、安政五年幕府ノ爲メニ捕ヘラレ、江戸ニ檻送セラレテ、小倉藩邸ニ拘セラル、翌六年九月十四日病ンデ死ス、年四十四。

贈從四位船越清藏

名ハ守愚、豐浦山樵ト號シ、變名ヲ小出勝雄ト云フ、長門豐浦ノ人ナリ、出デ、近江ニ在リ、弘ク天下ノ志士ト交リ、又京縉ノ間ニ出入シテ、勤王ノ事ニ奔走ス、安政戊午事ヲ以テ長門ニ下リ、途美禰郡繪堂村ヲ過グ、會々疾發シテ死ス、年六十餘。

松浦龜太郎

名ハ知新、字ハ無窮、松洞ト號ス、長門萩魚商ノ子ニシテ、松陰門下ノ秀才ナリ、丹精ノ技ヲ善クシ、好ンデ古今忠孝節義ノ人ヲ貌ス、文久二年同志ノ士久阪玄瑞、寺島忠三郎等ト共ニ京師ニ出デ、尊攘ノ事ニ奔走ス、龜太郎深ク時事ニ慨スル所アリ、粟田山中ニ自殺ス、時ニ文久二年四月十三日、年二十六。

贈從四位來原良藏

八

名ハ盛功、人ト爲リ豪爽銳敏、未ダ嘗テ人ノ屈スル所トナラズ、少ニシテ吉田松陰ノ門ニ入ル、安政年間藩命ヲ受ケテ長崎ニ至リ、西洋銃陣ヲ傳習シ、力ヲ兵制改革ニ致ス、文久二年ノ春薩州ニ使シ、復命後直チニ京師ニ入ル、既ニシテ又江戸ニ至ル、時ニ尊攘ノ論甚盛ナリ、盛功自ラ爲ス所アラントス、事藩ノ世子ニ聞ス、世子親シク之ヲ諭止ス、盛功感激、自刃シテ罪ヲ謝ス、時ニ文久二年八月二十七日、年三十七。

贈正二位大原重徳

重徳人ト爲リ剛直、夙ニ尊攘ノ議ヲ唱へ、天下志士ノ仰瞻スル所タリ、文久二年勅ヲ奉シテ江戸ニ下リ、幕府ナシテ叡旨ヲ遵奉セシム、皇威是ヨリ振フ、慶應年間岩倉具視等

ト皇室ノ爲メ屢々規畫スル所アリ、蓋シ明治中興ノ業重徳等翼贊ノ功多キニ居ルナリ、朝廷其勳勞ヲ嘉シ、祿一千石竝邸宅ヲ賜フ、明治十二年四月一日薨ズ、年七十八。

正四位姊小路公知

幼名靖麿ト云フ、文久年間三條實美ト共ニ朝ニ立テ、尊攘黨ノ牛耳ヲ執ル、二年實美ト共ニ江戸ニ下リ、將軍ヲシテ攘夷ノ勅ヲ奉ゼシム、三年下上賀茂及石清水ノ行幸アリ、皇威大ニ振張ス、蓋シ中興ノ業既ニ此ニ胚胎ス、是皆公知等參贊ノ功ナリ、佐幕黨之ヲ忌ミ、刺客ヲシテ之ヲ退朝ノ途ニ要撃セシム、公知重傷ヲ負ヒ歸邸後遂ニ斃ル、時ニ文久三年五月二十日、年三十。

長井雅樂

名ハ時庸、初メ與之助又隼人ト稱ス、文久元年藩主慶親ノ

九

命ヲ受ケ、航海遠略ノ說ヲ以テ京都江戸ノ間ニ周旋シ、以テ公武ノ一和ヲ圖ル、二年ノ春形勢一變、時論ノ容ル、所トナラズ、罪ヲ獲テ家ニ錮セラレ、三年二月六日藩命ニ依リ自刃シテ死ス、年四十五。

贈正四位中山忠光

忠光ハ中山大納言忠能ノ第三子ナリ、慷慨義ヲ好ミ、銳意王室ノ中興ヲ企圖ス、文久三年兵ヲ大和ニ舉ゲ、事敗レテ長州ニ遁レ、攘夷ノ戰ニ參加ス、時ニ森秀齋又藤村貞齋ト變名ス、元治元年十一月十五日長府ニ於テ兇徒ノ爲メニ殺サル、年二十二。

贈從四位松本謙三郎

名ハ衡、字ハ士權、奎堂ト號ス、三河ノ藩士印南維成ノ次男ナリ、三州ノ地由來德川氏ノ功德ヲ贊稱スルモノ多シ、謙

三郎獨リ皇室ヲ尊崇シテ已マズ、文久三年中山忠光ヲ奉ジテ、尊攘ノ義旗ヲ大和ニ舉ゲ、事敗レテ自刃ス、年三十三。

水井精一

名ハ通一、長藩ノ賤吏ナリ、慷慨氣節アリ、文久癸亥朝廷攘夷ノ詔ヲ布クヤ、率先義勇團ニ入り、大ニ爲ス所アラントス、會々薩船ノ棉絮ヲ積載シテ、別府港ニ泊スルアリ、將ニ長崎ニ至リテ、外人ト交易セントス、精一之ヲ聞キ、同志數人ト共ニ其船ヲ火シ、船主大谷仲之進ヲ殺シ、其首ヲ函シテ大阪ニ至リ、西本願寺門前ニ梟シテ自刃ス、年二十六。

贈從四位福原乙之進

名ハ信久、長原美禰介ト變稱ス、久阪義助等ト志ヲ同フシ、尊攘ノ事ニ奔走ス、文久三年十一月廿五日江戸脇阪又三ノ邸ニ在リテ、時事ヲ談ズ、幕吏之ヲ圍ム、乙之進奮鬪シテ

自刃ス、年二十七。

贈從四位杉山松介

名ハ律義、寒翠ト號ス、業ヲ吉田松陰ニ受ケ、尊攘ノ志甚深シ、元治元年六月勤王ノ志士等京都三條ノ逆旅池田屋ニ會シテ事ヲ議ス、幕府捕吏ヲシテ之ヲ掩撃セシム、松介時ニ藩邸ニ在リ、變ヲ聞テ之ニ赴ク、途中重傷ヲ蒙リ、藩邸ニ遁レ歸ル、其夜遂ニ死ス、年二十七。

贈從四位吉田稔麿

初メ榮太郎ト稱ス、名ハ秀實、字ハ無逸、松里勇、松村小介ノ變稱アリ、長藩ノ小臣吉田清内ノ子ナリ、夙ニ吉田松陰ノ門ニ入ル、松陰深ク其才ヲ奇トシ、謂テ曰ク、他日國家有事ノ時、汝ヲ用フル所アラント、松陰刑死後深ク思フ所アリ、國ヲ脱シテ江戸ニ至リ、麾下ノ士妻木田宮ニ仕ヘ、其用人

ト爲ル、既ニシテ藩主父子公武ノ間ニ周旋ス、稔麿狂喜、京師ニ入り、國事ニ奔走ス、尋デ長幕隙ヲ生ズルヤ、密ニ江戸ニ往來シ、爲ス所アラントス、嘗テ東風不競密話ヲ草シテ、其志ヲ述ブ、元治元年六月五日京師池田屋ノ變傷ヲ蒙リ、自刃シテ死ス、年二十四。

贈正四位宮部鼎三

名ハ增實、田城ト號ス、肥後益城郡田城ノ人ナリ、大志アリ、學ヲ好ミ、深ク吉田松陰ト交ル、元治元年六月五日京師池田屋ノ變ニ死ス、年四十五。

贈正五位土屋矢之助

名ハ楳、字ハ松如、蕭海ト號ス、嘗テ江戸ニ遊ビ、羽倉外記ヲ師トシ、文名一時ニ高ク、就游スル者數百人ニ及ブ、吉田松陰、僧月性ト交最モ深シ、安政、文久ノ間主トシテ諸藩ト交

涉ノ任ニ當リ、國事ノ爲メ盡ス所尠カラズ、元治元年七月病ンデ没ス、年三十六。

正一位三條實美

梨堂ト號ス、一時梨木誠齋ノ變稱アリ、文久三年八月ノ政變アルヤ、三條西季知等六人ト共ニ長州ニ下ル、世ニ之ヲ七卿ト稱ス、其勲業、天下ノ仰瞻スル所ナルヲ以テ費セズ、明治二十四年二月薨ズ、年五十五。

贈正四位錦小路賴徳

字ハ一貫翠園ト號ス、一時桑原瀨太郎ノ變稱アリ、權大納言廣橋在照ノ二子ニシテ、中務少輔錦小路賴易ノ後ヲ繼グ、尊攘ノ志甚厚ク、文久三年八月三條實美等ト共ニ長州ニ下ル、即チ七卿ノ一人ナリ、元治元年四月廿五日長門赤間關ニ在リ、病ンデ卒ス、年三十。

贈正三位澤宣嘉

春川ト號シ、又澤小春ト稱ス、文久三年八月三條實美等ト共ニ長州ニ下リ、居ルコト二ヶ月、長州ヲ脱シ、義兵ヲ但馬生野ニ舉ゲ、事敗レテ再ビ長州ニ潜匿ス、明治維新ノ年參與ニ舉ゲラレ、後外務卿ヨリ駐露公使ニ轉シ、明治六年九月二十七日俄ニ病ンデ薨ズ、年三十九。

正二位三條西季知

一時榎本藤一郎ノ變稱アリ、三條實美等ト志ヲ同フシ、文久三年八月長州ニ走ル、慶應三年十二月王政復古ノ事アルヤ、實美等ト共ニ京師ニ召還セラル、後歌道ノ御師範ト爲リ、明治二十三年八月二十四日薨ズ、年七十。

從一位壬生基修

基修亦七卿ノ一人ニシテ、一時萬治修一郎ト變稱ス、正三

位宰相中將庭田重基ノ三男ナリ、安政年間幕府ノ專恣日ニ甚シキヲ慨シ、大ニ皇運挽回ノ志ヲ抱ク、文久三年長州ニ走り、慶應三年ノ末歸洛ヲ許サル、明治初年北越征討總督ノ參謀トナル、明治三十九年三月六日薨ズ、年七十二。

水野丹後

名ハ正名、溪雲齋ト號ス、筑後久留米ノ人ナリ、夙ニ尊攘ノ志ヲ抱キ、眞木保臣等ト共ニ京師ニ入り、尊攘ノ事ニ奔走ス、文久三年八月ノ政變アルヤ、三條實美等七人ニ隨フテ、西下シ、土方楠左衛門等ト共ニ、常ニ左右ニ侍シ、其謀議ニ參ス、明治四年長州ノ脫徒大樂源太郎等隱匿ノ事ニ坐シ、青森ニ幽セララル、其翌五年十一月同所ニ病死ス。

從一位公爵毛利元德

初メ騷尉ト稱ス、實ハ支封德山藩主毛利兵庫守廣鎮ノ十

男ニシテ、嘉永四年宗家毛利敬親ニ養ハレ、安政二年立テ世子ト爲リ、廣封ト名ク、將軍家定偏諱ヲ賜フニ依リ、定廣ト改メ、後廣封ニ復シ、終ニ元德ト改ム、文久以來父敬親ヲ輔ケテ王事ニ盡瘁シ、遂ニ克ク中興ノ鴻業ヲ翼贊ス、明治四年二月家督、同四月山口藩知事ト爲ル、同七月廢藩置縣ノ制發布ト共ニ知事ヲ免ゼラル、十七年七月公爵ヲ授ケラレ、二十八年從一位ニ敍セララル、二十九年十二月廿五日薨ズ、實ハ二十八年五十八、其翌國葬仰出サレ、勅使ヲ以テ誄ヲ賜フ、曰ク、諸藩ニ率先シテ、夙ニ勤王ノ大義ヲ唱ヘ、乃父ヲ毗翼シテ、同ク中興ノ鴻圖ヲ贊シ、身萬難ヲ經テ、志一誠ヲ存ス、既ニ偉勳ヲ成シ、又重望ヲ負フ、今也淪亡ス、曷ゾ軫悼ニ勝ヘン、茲ニ侍臣ヲ遣シ、賻ヲ齎シテ以テ弔慰セシムト、

贈正四位來島又兵衛

名ハ政久、幼名龜之進、變名ヲ森喜太郎ト云フ、人ト爲リ剛果、武術ニ長シ、又吏務ニ練達ス、嘉永癸丑以來幕府ノ因循ヲ憤リ、尊攘ノ議ヲ唱フ、文久年間藩ノ要路ニ立テ、同志ノ士ト共ニ大ニ盡ス處アリ、其後藩主敬親勅勘ヲ蒙ルヤ、又兵衛雪窠ヲ以テ自ラ任ズ、元治甲子ノ秋、遂ニ兵ヲ率キテ京都ニ入り、天閣ヲ敲テ哀訴ス、然レドモ省セテレズ、遂ニ君側ヲ清メントス、事成ラズ、蛤門ニ戰死ス、實ニ元治甲子七月十九日ナリ、年四十九。

贈正四位久坂義助

初メ玄瑞ト稱ス、名ハ通武、字ハ實甫、秋湖又ハ江月齋ト號シ、變稱ヲ松野三平、河野義輔ト云フ、蚤ク吉田松陰ニ師事シ、才學卓越、高杉晋作ト共ニ松陰門下ノ聯璧ト稱セラル、安政戊午以來國事ニ奔走シ、常ニ同志ノ牛耳ヲ執ル、尋デ

藩政府ニ擢用セラレ、機務ニ參與シ、老輩ノ爲メニ推重セラル、元治甲子ノ秋、衆ヲ率キテ君窠ヲ闕下ニ訴フ、省セラレズ、遂ニ禁門ノ變アリ、義助責ヲ引テ鷹司邸ニ自刃ス、年二十六。

贈正四位寺島忠三郎

名ハ昌昭、字ハ子大、刀山又斃不休齋ト號シ、變稱ヲ牛敷春三郎、中島三郎、兒島百之助ト云フ、松陰門下ノ名士ナリ、文久以來久坂義助等ト共ニ尊攘ノ事ニ盡力シ、元治甲子七月ノ變、義助ト共ニ鷹司邸ニ自刃ス、年二十二。

贈正四位入江九一

初メ杉藏ト稱ス、名ハ弘毅、字ハ子遠、變稱ヲ川島小太郎ト云フ、松陰門下ノ名士ナリ、性寬厚寡言、至誠人ニ接シ、常ニ同志ノ爲ニ推重セラル、元治甲子ノ變、鷹司邸ニ戰死ス、年

贈正四位眞木和泉守

名ハ保臣、紫灘ト號シ、變名ヲ濱忠太郎、甲斐眞翁ト云フ、筑後三潞郡瀬下町ノ人、世々水天宮ノ祠官タリ、夙ニ尊攘ノ大義ヲ唱ヘ、常ニ皇室ノ中興ヲ企圖ス、文久三年夷狄親征ノ議ヲ上リ、大ニ爲ス所アラントス、而シテ事遂ニ成ラズ、三條實美等七人ニ從フテ長州ニ下ル、元治甲子久坂義助等ト共ニ衆ヲ率キテ八幡山崎ニ駐屯シ、朝議ノ回復ヲ圖ル、七月十九日ノ變、鷹司邸ヲ脱シテ、山崎ニ退キ、同志十餘人ト共ニ天王山ニ自刃ス、年五十二。

贈正四位平野次郎

名ハ國臣、筑前ノ人、夙ニ尊王倒幕ノ志ヲ抱キ、培覆論ヲ草シテ同志ニ告グ、文久二年ノ春島津久光ノ東上ヲ機トシ、

眞木和泉守、田中河内介等ト共ニ爲ス所アラントス、會々筑前藩主東觀セントシテ播州ニ在リ、次郎其駕ヲ大藏谷ニ要シテ、王事ニ勤メシメントス、藩主大ニ驚キ、疾ト稱シテ西歸ス、次郎扈シテ赤間關ニ至ル、藩主俄ニ之ヲ捕ヘ、福岡ノ獄ニ投ズ、既ニシテ赦サレテ京師ニ入ル、文久三年八月朝議俄ニ變シ、三條實美等七人長州ニ奔ル、次郎回復ヲ圖リ、澤宣嘉ヲ奉シテ、兵ヲ但馬ニ舉グ、事成ラズ、幕吏ノ爲メニ捕ヘラレ、京師六角ノ獄ニ投ゼラル、元治元年七月十九日禁門ノ變アリ、其二十日幕府在獄者三十七人ヲ斬ル、次郎辭世ヲ詠シ、從容死ニ就ク、年三十七。

田村育藏

名ハ直道、長藩老臣益田右衛門介ノ臣ナリ、人ト爲リ勇壯、節義ノ風ヲ尙ブ、文久年間交ヲ久坂玄瑞ニ結ビ、尊攘ノ事

ニ從フ、元治甲子ノ變、應司邸内ニ自刃ス、年二十九、死ニ臨ミテ一指ヲ噬ミ、血ヲ以テ絶命ノ詞ヲ書ス、即チ本帖載スル所是ナリ。

贈正四位益田右衛門介

初メ彈正ト稱ス、名ハ親施、長藩ノ老臣ナリ、性豁達、英氣アリ、安政以來藩ノ要路ニ立テ、藩主ヲ輔ケテ勤王ノ事ニ執掌ス、文久三年藩主ノ命ヲ受ケテ京都ニ入り、夷狄親征ノ議ヲ上ル、朝廷之ヲ納レ、大和行幸ノ勅ヲ發セラル、佐幕黨大ニ驚キ、謀ヲ以テ之ヲ沮止ス、於是朝議一變ス、乃チ三條實美等七卿ヲ奉シテ西還ス、元治元年ノ秋藩内ノ志士等相率キテ近畿ニ集リ、藩主父子ノ冤ヲ訴フ、右衛門介藩主ノ命ヲ受ケ、往テ志士等ヲ鎮撫ス、然トモ勢制スベカラズ、遂ニ禁門ノ變アリ、幕府其罪ヲ聲シテ、征討ノ師ヲ發ス、時

ニ藩論正俗ニ派ニ分レ、俗黨政柄ヲ執ル乃チ右衛門介等三人ヲ殺シテ、罪ヲ幕府ノ軍門ニ謝セントス、右衛門介等從容自刃シテ死ス、實ニ同年十一月十二日ナリ、年三十二。

贈正四位福原越後

名ハ元儻、翠崖ト號ス、徳山藩主毛利兵庫頭廣鎮ノ六男ニシテ、藩ノ老臣福原氏ヲ嗣グ、性溫直、經義ニ精通シ、最モ筆札ニ巧ナリ、常ニ藩ノ要職ニ居リ、藩主ヲ輔ケテ、尊攘ノ事ニ執掌ス、元治元年藩主ノ命ヲ受ケ、伏見ニ駐シテ我衆ヲ鎮撫ス、七月十九日ノ變、藤杜ニ進ム、途中創ヲ被ツテ引還ル、十一月十二日益田右衛門介國司信濃ト共ニ自刃ヲ命ゼラル、年五十。

贈正四位國司信濃

名ハ親相、長藩ノ老臣ナリ、性文ヲ好ミ、武ヲ嗜ミ、尤モ和歌

ヲ善ス、夙ニ尊攘ノ大義ヲ唱へ、采邑ノ士民ヲ鼓舞ス、文久三年馬關ニ駐シテ攘夷ノ戰ヲ督ス、元治元年ノ秋京都嵯峨ニ駐シ、益田、福原ノ二老臣ト共ニ我衆ヲ鎮撫ス、七月十九日ノ變、中立賣門ニ戰ヒ、事敗レテ西還ス、其十一月十二日、益田等ト共ニ自刃ヲ命ゼラル、年二十四。

贈正四位穴戶左馬介

名ハ眞徵、初メ九郎兵衛ト稱シ、橋廂ト號ス、人ト爲リ沈黙重厚、皇典ニ通シ、和歌ヲ善シ、勤王ノ志最深シ、安政以來藩ノ要職ニ歷任シ、尊攘ノ事ニ盡瘁ス、同僚中年老ヲ以テ推重セラレ、又後進ノ爲メニ畏敬セラル、元治元年ノ秋八幡山崎ニ在リテ、謀議ニ參畫シ、我衆ノ激發ヲ諭止セントス、而シテ勢制スベカラズ、遂ニ禁門ノ變アリ、左馬介責ヲ引テ自刃セントス、人ノ爲メニ止メラレ、國ニ歸リ謹慎シテ

罪ヲ待ツ、俗論黨政權ヲ握ルニ及ビ、左馬介等四人ヲ野山獄ニ投ジ、遂ニ斬ニ處ス、時ニ十一月十二日、年六十一。

贈正四位竹内正兵衛

名ハ勝愛、竹叢ト號ス、人ト爲リ沈毅果斷、文久年間大阪藩邸ノ監吏トナリ、穴戶左馬介等ト拮据經營シテ、金穀絶乏ノ憂ナカラシメ、以テ尊攘ノ事業ヲ贊助ス、元治元年老臣福原越後ノ參謀トシテ京師ニ至リ、事敗レテ國ニ歸ル、十一月十二日穴戶左馬介等ト共ニ野山獄ニ斬ラル、年四十二。

贈正四位中村九郎

初メ道太郎次ニ九郎兵衛ト稱シ、後九郎ト改ム、名ハ清旭、白水山人ト號ス、變稱ヲ中河内主水ト云フ、人ト爲リ雄偉氣ヲ負フ、嘉永癸丑米使入港以來國威ノ振ハザルヲ慨シ、

吉田松陰等ト共ニ頻リニ尊攘ノ議ヲ唱フ安政戊午京都ニ入り堀田閣老ノ動靜ヲ探リ梁川星巖梅田源次郎賴三樹三郎等ト謀圖スル所アリ爾來藩ノ政府ニ立テ周布政之助等ト共ニ尊攘ノ事ニ執掌ス元治元年七月福原越後ニ從フテ伏見ニ在リ其謀議ニ參ス事敗ルニ及ビ國ニ歸リ獄ニ投ゼラル十一月十二日尖戸左馬介等ト共ニ斬ニ處セララル年三十七。

贈正四位佐久間佐兵衛

尖戸左馬介中村九郎竹内正兵衛ト共ニ斬ニ處セララル略傳前ニ出ヅ。

奇兵隊血盟書

奇兵隊ハ文久三年高杉晋作ノ創立スル所ナリ此血盟書ハ蓋シ元治甲子ノ變後ニ成リシモノナラン。

贈正四位清水清太郎

名ハ親知字ハ子濟葭堂ト號ス實ハ清水圖書ノ子ニシテ出デ宗家清水美作ノ後ヲ嗣グ清水氏ハ長左衛門宗治ノ後裔ニシテ世々毛利氏ノ老臣タリ文久三年加判ニ列シ京師ニ在リテ尊攘ノ事ニ執掌ス八月朝議ノ一變スルヤ君冤ヲ雪ギ朝議ヲ回スヲ以テ自ラ任シ因備諸藩ニ使シテ辨說最モ力ム會々禁門ノ變アリ幕府師ヲ興シテ將ニ我ヲ討セントス清太郎麻田公輔周布政之助ト共ニ岩國ニ至リ吉川監物ヲ見テ善後ヲ策ス既ニシテ俗論沸騰政府員皆罪ヲ獲ル乃チ采邑ニ歸リテ謹慎ス俗黨之ヲ萩ニ召致シ自刃ヲ命ズ清太郎沐浴淨衣ヲ着ケ端坐シテ古道照顔色ノ五字ヲ書シ從容劍ニ伏シテ死ス時ニ元治元年十二月二十五日ナリ年二十二。

贈正四位周布政之助

名ハ兼翼、字ハ公輔、麻田ト號ス、後故アリ麻田公輔ト改ム、杉岡敬輔ハ一時ノ變稱ナリ、嘉永、安政以降長藩政府ノ要路ニ立テ、藩主勤王ノ事業ヲ翼贊シ、文久癸亥八月朝議一變藩主冤ヲ蒙ルヤ、回復ヲ以テ自ラ任ジ、規畫經營最モ苦心ヲ極ム、元治甲子ノ秋内憂外患竝至リ、國事復々爲スベカラズ、乃テ責ヲ引テ自刃ス、實ニ九月廿五日也、年四十二、本帖載スル所ノ遺書ヲ見テ、其精神ノ在ル所ヲ知ルベシ。

贈正四位前田孫右衛門

幼稱岩助、名ハ利濟、字ハ致遠、陸山ト號ス、人ト爲リ廉直、善ク衆ヲ容ル、吉田松陰其人格ヲ愛重シ、我國ノ樂正子ト稱ス、周布政之助等ト共ニ藩ノ要路ニ在リ、藩主勤王ノ事業ヲ翼贊ス、元治甲子禁門ノ變アルヤ、藩内俗論沸騰シ、孫右

衛門等引退罪ヲ侍ツ、於是俗黨政權ヲ握リ、孫右衛門等七人ヲ獄ニ投シ、遂ニ斬ニ處ス、實ニ甲子十二月十九日ナリ、年四十七。

贈正四位毛利登人

名ハ武、初メ左門ト稱シ、有所、在壑、斤田、主靜庵等ノ號アリ、周布政之助、前田孫右衛門等ト共ニ藩ノ要路ニ在リ、尊攘ノ事ニ執掌ス、元治甲子十二月十九日前田孫右衛門等ト共ニ獄ニ斬ラル、年四十四。

贈正四位山田亦介

幼稱卯七、名ハ公章、愛山又含章齋ト號ス、兵學ニ邃ク、夙ニ力ヲ海防ニ用キ、又造船ノ術ニ通ズ、吉田松陰亦嘗テ其教ヲ受ク、後要路ニ立テ、首トシテ兵制改革ノ任ニ當ル、元治甲子十二月十九日前田孫右衛門、毛利登人等ト共ニ殺サ

ル、年五十六。

贈正四位檜崎彌八郎

名ハ清義、節菴ト號ス、性謹嚴、氣節アリ、文久以來藩ノ政府ニ在リテ尊攘ノ事ニ執掌ス、元治甲子藩内俗論ノ起ルヤ、高杉晋作與ニ俱ニ脱走セントス、彌八郎正道ヲ蹈ンデ斃レンノミト云フテ肯ゼズ、其十二月十九日遂ニ俗黨ノ爲メニ殺サル、年二十八。

贈正四位渡邊内藏太

名ハ暢、介亭ト號ス、檜崎彌八郎、高杉晋作等ト友トシ善シ、長藩尊攘ノ事アルヤ、政務ニ參シテ大ニ盡ス所アリ、元治甲子十二月十九日檜崎等ト共ニ俗論黨ノ爲メニ殺サル、年二十九。

贈正四位大和國之助

初メ彌八郎ト稱ス、名ハ直利、文久二年江戸ニ在リ、久坂玄瑞、高杉晋作等ト尊攘ノ事ニ奔走ス、後政務ニ參シ、檜崎等ト共ニ大ニ盡ス所アリ、元治甲子十二月十九日殺サル、年三十。

贈正四位松島剛藏

初メ瑞益ト稱ス、名ハ久誠、字ハ有文、韓峯ト號ス、人ト爲リ豪爽快活、蘭學ニ通ジ、航海ノ術ニ長ズ、藩主擢デ、海軍ヲ督セシム、長藩海軍ノ興ル、剛藏ノ力多キニ居ル、安政以來桂小五郎等ト國事ニ奔走シ、遂ニ藩ノ政務ニ參ス、元治甲子十二月十九日前田、毛利等ト共ニ俗黨ノ爲メニ殺サル、年四十。

贈從四位兒玉次郎彦

名ハ忠炳、青田又品山ト號ス、支封徳山藩主毛利氏ノ臣ナ

リ、人ト爲リ剛毅正直、常ニ外夷ノ跋扈ヲ惡ミ、尊攘ノ事ニ力ム、元治元年同藩ノ姦邪ヲ除カントシテ成ラズ、却テ姦黨ノ爲メニ殺サル、時ニ元治元年七月十二日、年二十三。

贈從四位本城清

名ハ斐、字ハ仲章、素堂ト號ス、徳山藩士ナリ、夙ニ尊攘ノ議ヲ唱ヘ、兒玉次郎彦等ト其志ヲ同フス、元治元年同藩ノ俗論黨隙ヲ窺ヒ、清等正義ノ士ヲ囚ヘテ之ヲ錮ス、慶應元年正月十四日遂ニ縊殺セララル、年四十一。

贈從四位江村彦之進

名ハ厚、字ハ季德、風月又醉顛ト號ス、徳山藩士ナリ、篤學強記、弱冠ニシテ徳山略記若干卷ヲ編ス、兒玉本城等ト共ニ士氣ヲ振作シテ、力ヲ勤王ノ事ニ致ス、元治元年八月十二日兇徒ノ爲メニ刺殺セララル、年三十三。

贈從四位河田佳藏

名ハ政佳、月波ト號ス、徳山藩士ニシテ兒玉次郎彦等ノ同志ナリ、元治元年俗論黨ノ爲メニ囚ヘラレ、其十月廿四日斬殺セララル、年二十三。

贈從四位信田作太夫

名ハ徽、字ハ伯懿、秋琴ト號ス、徳山藩士ナリ、常ニ四方ノ志士ト交リ、力ヲ尊攘ノ事ニ致ス、元治甲子俗論黨ノ爲メニ捕ハレ、慶應元年正月十四日日本城清、淺見安之丞ト共ニ縊殺セララル、年四十一。

贈從四位井上唯一

名ハ和彦、初メ彦太郎ト云フ、徳山藩士ナリ、夙ニ勤王ヲ唱ヘ、名籍ヲ本藩ノ奇兵隊ニ置キ、京攝ノ間ニ往來ス、元治元年奸黨ノ爲メニ捕ヘラレ、其十月廿四日河田佳藏ト共ニ

斬殺セラル、年二十三。

贈從四位淺見安之丞

名ハ正虔、字ハ伯恭、煙溪ト號ス、徳山藩士ニシテ兒玉次郎彦等ノ同志ナリ、元治元年奸黨ノ爲メニ囚ヘラレ、慶應元年正月十四日本城清、信田信太夫ト共ニ新宮海邊ニ縊殺セラル、年三十三、以上七人ヲ徳山七士ト稱ス。

小國融藏

名ハ武彝、嵩陽ト號ス、長藩ノ老臣益田氏ノ臣ナリ、人ト爲リ沈毅寡黙、人望ンデ之ヲ畏ル、夙ニ蝦夷開拓ノ志ヲ抱キ、尊攘ノ大義ヲ説ク、元治元年京師變動ノ際、久坂義助ト共ニ鷹司邸ニ在リ、事敗レタル後、久坂ノ遺言ヲ受ケテ歸郷ス、其主益田親施罪ヲ得テ、徳山ニ幽セララル、ヤ、憂慮措ク能ハズ、極力救護ニ盡シタルモ成ラズ、憤慨病ヲ得テ死ス、

時ニ慶應元年閏五月二日、年四十二。

大谷樸助

名ハ實徳、字ハ篤甫、雪溪又梅窓ト號ス、長藩老臣益田氏ノ臣ナリ、幼ニシテ小國融藏ニ學ビ、後吉田松陰ニ師事ス、文久年間京攝ノ間ニ奔走シ、時事ヲ視察ス、元治甲子其主益田右衛門介ノ自刃ヲ命ゼラル、ヤ、樸助深ク之ヲ憤慨シ、大ニ爲ス所アラントシ、志士ヲ糾合シテ回天軍ト稱ス、於是俗論沸騰シ、主命ヲ矯メテ、自刃セシム、本藩士之ヲ救ハントセシモ及バズ、時ニ慶應元年三月朔日、年二十八。

川上範三

名ハ俊愼、長藩老臣益田氏ノ臣ナリ、少小ヨリ小國融藏ニ從學ス、文久年間京師ニ遊ビ、尊攘ノ志士ト交ル、元治甲子禁門ノ變アルヤ、伏見ニ潛伏シ、事情ヲ探リテ歸國ス、未ダ

幾ナラズ、其主益田右衛門介自刃ヲ命ゼラル、範三大ニ憤慨シ、回天軍ヲ組織シテ亡主ノ遺志ヲ達セントス、俗黨ノ爲メニ構陷セラレ、慶應元年三月朔日樸助ト共ニ自刃ス年二十五。

回天軍血盟書

回天軍ハ慶應元年二月六日大谷樸助等ノ設立スル所ナリ、此血盟書ハ其月二十七日ニ成リシモノナリ。

贈正四位山田宇右衛門

名ハ頼毅、星山、又治心氣齋ト號ス、人ト爲リ強毅謙遜、質素ヲ尙ブ嘗テ吉田松陰ニ告テ曰ク、世變近ニ在ラン、屑々稿簡ヲ執リ、空言ヲ守ルハ、宇内ノ形勢ヲ研究スルノ急務タルニ若カザルナリト、松陰是ニ於テ發憤始テ洋籍ヲ讀ム、嘉永安政ヨリ慶應年間ニ至ルマデ常ニ藩ノ要路ニ在リ

テ、國事ニ執掌ス、木戸孝允、廣澤兵助等常ニ長者ヲ以テ之ヲ待ツ、慶應三年十一月十一日病ンデ死ス年五十五。

贈正四位高杉晋作

初メ東一ト稱ス、名ハ春風、字ハ暢夫、東行ト號シ又西海一狂生ト稱ス、楠樹ハ其別號ナリ、後谷梅之進ト稱シ、終ニ谷潛藏ト改ム、備後屋助一郎ハ一時ノ變稱ナリ、人ト爲リ磊落不羈、才鋒縱橫、端睨スベカラズ、其事蹟人口ニ膾炙ス、慶應三年四月十四日病ンデ死ス年二十九。

贈正三位西郷隆盛

初メ吉之助、變稱ヲ大島三右衛門ト云ヒ、南洲ト號ス、薩藩士ナリ、其英名兒童走卒ノ知ル所ナリ。

從五位交野十郎

本ハ片野後交野ニ改ム、號ハ御狩、名ハ瑜、山本保助ノ變稱

アリ、博ク兵書ヲ涉獵シ、軍事ニ通曉ス、早ク奇兵隊ニ入り、常ニ其帷幄ニ參ス、攘夷内亂及ビ四境ノ役皆偉功アリ、慶應三年ノ冬長軍ノ參謀トシテ京師ニ入り、西郷吉之助、山田市之允等ト共ニ討幕ノ事ヲ畫策ス、伏見戰捷後更ニ東北ニ出征シ凱旋後東京府少參事ニ任ジ、後陸軍大佐ニ進
 ミ明治六年十一月十四日病ンデ東京ニ死ス年三十九。

正二位伯爵林友幸

初メ半七ト稱ス、性武ヲ好ミ、槍術ニ巧ナリ、蚤ク奇兵隊ニ入り、攘夷及藩論恢復ノ戰皆功アリ、尋デ第二奇兵隊ヲ監シ、四境ノ役大島郡ヲ克復ス、明治元年長兵ヲ指揮シテ幕軍ヲ伏見ニ破リ、尋デ官軍ノ參謀ト爲リ、奥州ニ出征ス、其後盛岡藩大參事ヨリ大藏大丞、内務大丞、内務少輔ヲ經テ、元老院議官ト爲リ、二十年五月華族ニ列シ、子爵ヲ授ケラ

ル、後富美宮、泰宮御養育主任ヲ命ゼラレ、樞密顧問官ヲ兼ヌ、明治四十年十一月特ニ伯爵ヲ授ケラレ、其月八日薨去ス、年八十五。

正二位伯爵山田顯義

市之丞ト稱シ空齋ト號ス、少小ヨリ國事ニ奔走シ、慶應乙丑藩論回復ノ役頗ル力ヲ致シ、年十七ニシテ御楯隊ノ軍監トナル、四境ノ役藝州ニ出戰シ、丁卯ノ冬兵ヲ率キテ京師ニ入り、戊辰伏見鳥羽ノ戰官軍ノ帷幄ニ參ス、尋デ征討總督ノ副參謀トシテ越後出羽ニ出征シ、遂ニ函館ヲ平定ス。陸軍少將ヨリ中將ニ進ミ、參議、工部卿、内務卿、司法卿、司法大臣ニ歷任ス、明治二十五年十一月十四日但馬生野ニ於テ暴ニ薨ズ、年四十八。

正五位國貞直人

後廉平ト稱ス、初メ景廉ト名ケ、次ニ景行ト改ム、一時逸水清助ノ變稱アリ、慶應三年長薩、藝三藩聯合シテ兵ヲ京師ニ入ル、ヤ、楫取素彦ト共ニ長軍ノ參謀トナリ、大ニ盡ス所アリ、維新後藩ノ要路ニ在リ、明治七年以後内務省ニ出仕シ、尋デ愛知縣令ト爲ル、明治十八年一月十八日名古屋ニ於テ病死ス、年四十五。

贈正三位廣澤兵助

名ハ直臣、初メ波多野金吾又波多野藤右衛門ト稱シ、障岳ト號ス、軀幹長大、性溫良質直、吏務ニ練達ス、元治甲子俗論黨ノ爲メニ獄ニ投ゼラル、慶應元年藩論反正後政府ニ入り、木戸孝允等ト共ニ國事ニ執掌ス、慶應丁卯ノ冬京師ニ入り、王政復古ノ業ヲ翼贊ス、明治元年參與ニ輔セラレ、尋テ海陸軍務掛トナリ、内國事務掛ヲ兼ヌ、既ニシテ民部副

知事、民部大輔等ヲ經テ參議ニ任ゼラル、明治四年一月九日刺客ノ毒刃ニ罹リテ歿ス、年三十九。

贈從四位世良修藏

名ハ砥德、字ハ他山、周陽ト號ス、長藩老臣浦鞞負ノ臣ナリ、少小ヨリ僧月性ニ從學シ、尋デ江戸ニ至リ、羽倉外記、安井忠平、藤森恭輔等ノ門ニ遊ブ、長藩尊攘ノ事アルヤ、奇兵隊ニ入り、其書記ト爲ル、慶應元年藩論回復ノ役、二三ノ同志ト共ニ南郡ヲ徇ヘ、第二奇兵隊ヲ編制シ、其軍監トナル、慶應丙寅、林半七ト共ニ隊兵ヲ指揮シテ大嶋郡ヲ克復ス、丁卯ノ冬京師ニ入り、王政復古ノ事業ヲ翼贊ス、明治元年奧羽鎮撫使ノ參謀ト爲リ、奥州ニ出征シ、福島驛ノ旅舎ニ於テ賊兵ノ爲メニ襲殺セララル、時ニ閏四月十九日、年三十四。

佐々木次郎四郎

名ハ雅風、文久三年京師ニ入り、尊攘ノ事ニ盡力ス、元治甲子ノ變、鷹司邸ニ入りテ勇戦シ、事敗レテ國ニ歸ルヤ、馬關ニ出デ、外艦ト戦フ、同年御楯隊ヲ組織シ、其軍監タリ、四境ノ役集義隊ヲ率キテ藝州大野ニ戦フ、戊辰ノ役徳山岩國ノ兵ヲ率キテ率先大阪城ニ入ル、後大阪府ニ出仕シ、明治四年病ンデ死ス、年三十三。

贈正四位福田俠平

初メ良助ト稱ス、名ハ公明、悠々ト號ス、人ト爲リ沈勇、大度アリ、山縣狂介ト共ニ奇兵隊ヲ監シ、攘夷、内亂及四境ノ役皆偉功アリ、慶應三年十一月京師ニ入り、廣澤兵助、品川彌二郎ト共ニ討幕ノ密勅ヲ奉ジテ歸ル、明治元年五月奇兵隊ヲ率キテ越後、陸奥ニ進戦ス、平定後國ニ歸リ、明治元年十一月廿四日赤間關ニ病死ス、年四十。

贈正四位時山直八

名ハ養直、梅南ト號ス、變名ヲ漂流坊海月、玉江三平ト云フ、人ト爲リ忠烈、夙ニ吉田松陰ノ薰陶ヲ受ケ、王權回復ヲ以テ志ト爲ス、文久三年奇兵隊ニ入り、久坂玄瑞等ト京師ニ上リ、周旋スル所アリ、同年小笠原圖書頭隱謀ヲ抱キ入京セントス、直ハ憤慨之ヲ途中ニ刺サントス、馬關攘夷、内亂及四境ノ役皆功アリ、明治元年奇兵隊參謀トシテ越後ニ出戦シ、五月十三日旭山ニ奮戦シテ死ス、年三十一。

贈從三位大村益次郎

名ハ永敏、初メ村田藏六ト稱ス、周防吉敷郡鑄錢司村ノ人ナリ、人ト爲リ聰明、識量アリ、沈思寡默事ニ耐ヘ、果斷ニ富ム、漢籍ヲ廣瀨淡窓ニ學ビ、洋學ヲ緒方浩庵ニ受ケ、最モ歐洲ノ兵法ニ精通ス、初メ宇和島藩ニ聘セラレ、次ニ幕府ニ

聘セラル、長幕隙ヲ生ズルニ及ビ、俸ヲ捨テ、歸藩シ、政務ニ參與シ、主トシテ兵制改革ニ從事ス、慶應丙寅長軍ノ參謀トシテ石州ニ戰ヒ、大ニ幕軍ヲ破ル、明治元年軍務局判事ト爲リ、江戸府判事ヲ兼ネ、江戸ニ在リテ東北ノ軍事ヲ指揮シ、幕府ノ殘黨ヲ上野ニ討滅ス、尋デ兵部大輔ト爲ル、明治二年九月四日京都木屋町ノ寓ニ於テ刺客ノ爲メニ重傷ヲ受ケ、其十一月五日遂ニ起タズ、年四十七。

從二位子爵穴戸璣

初メ山縣半藏ト曰フ、老臣穴戸氏ヲ冒スニ及ビ、備後助ト稱ス、後三郎ト改メ、敬宇又潮坪ト號ス、安政以來四方ノ志士ト交リ、國事ニ奔走ス、尋デ藩世子ノ侍讀ト爲リ、機務ニ參與ス、慶應年間幕府ノ問罪使ト廣島ニ應接シ、陳情辯疏餘蘊ナシ、一時幕吏ノ爲メニ拘囚セラレタルモ、後放還セ

ラレ、維新後山口藩權大參事ト爲リ、刑部少輔、司法少輔、同大輔ヲ經テ駐清特命全權公使ニ任ゼラル、明治二十年五月華族ニ列シ、子爵ヲ授ケラレ、貴族院議員ニ勅選セララル、明治三十四年十月一日薨ズ、年七十四。

赤川又太郎

名ハ淵、晚翠ト號ス、詩文ヲ善クシ、書畫ニ巧ナリ、慶應年間小田村素太郎等ト穴戸備後助ニ從フテ廣島ニ至リ、幕吏ト應接ノ事ニ參與ス、明治初年藩ノ學事ヲ管掌セシガ、其後詩酒ニ放浪シテ世事ヲ顧ミズ、明治七年十二月某日山口ニ病死ス、年四十七。

大津唯雪

名ハ忠之、後唯雪ト改ム、初メ村田次郎三郎ト云ヒ後大津四郎右衛門ト稱ス、村田清風ノ長子ナリ、文久二年京都藩

邸ノ留守居ト爲リ尊攘ノ事ニ盡カス、三年七卿ヲ奉ジテ國ニ歸ル、元治元年俗論政府ノ爲メニ幽囚セラレシガ、藩論恢復後赦サレテ職ニ就キ、國事ニ執掌ス、明治二年山口市令ト爲ル、八年前原一誠ノ亂因ク大義ヲ執リ、一郷ノ士ヲ説諭シテ、順逆ヲ誤ラシメズ、明治二十年四月三日東京ニ病歿ス、年六十三。

贈從一位木戸孝允

初メ桂小五郎、後木戸貫治又準一郎ト稱ス、松菊、竿鈴、廣寒等ノ號アリ、白田幸助ハ一時ノ變稱ナリ、其勳績ハ人皆之ヲ知ル、故ニ贅セズ。

正二位子爵品川彌二郎

名ハ日孜、字ハ思父、念佛庵主ト號ス、變稱ヲ橋本八郎、松本清熊ト云フ、少ニシテ吉田松陰ニ從學シ、文久年間以來同

志ノ士ト共ニ尊攘ノ事ニ奔走シ、攘夷ノ戰及藩論恢復ノ役頗ル力ヲ致ス所アリ、慶應年間京都薩邸ニ潜伏シテ、幕情ヲ偵察ス、三年十月討幕ノ密勅ヲ奉ジテ國ニ歸リ、尋デ又京師ニ入り、王政復古ノ事ヲ翼賛ス、明治二年彈正少忠トナリ、同三年李佛戰爭ノ際歐洲ニ赴ク、歸朝後内務大丞、農商務大輔、驛遞總監ニ歷任シ、子爵ヲ授ケラル、同二十八年駐獨特命全權公使ニ任シ、其後宮中顧問官、御料局長、内務大臣ニ歷任シ、終ニ樞密顧問官ト爲ル、明治三十三年二月二十六日病ンデ薨ズ、年五十六。

正二位子爵野村靖

初メ和作、後靖之介ト云フ、字ハ子共、欲庵又香夢庵主ト號ス、變稱ヲ櫻井東太、入江嘉傳次ト云フ、少ニシテ吉田松陰ニ師事シ、安政年間以來國事ニ奔走シ、文久三年三條實美

等七卿長州ニ下ルヤ、其用掛ト爲リ、君寃雪白ノ事ニ盡力
シ、藩論恢復ノ役亦功アリ、明治四年宮内大丞ト爲リ、尋テ
外務大記ニ任ゼラレ、歐米ヲ巡視ス、歸朝後神奈川縣令、驛
遞總監、遞信次官ニ歷任シ、子爵ヲ授ケラル、其後駐佛特命
全權公使、内務大臣、遞信大臣ヲ經テ終ニ樞密顧問官ト爲
リ、富美宮、泰宮御養育主任ヲ兼ヌ、明治四十二年一月二十
四日病ンデ薨ズ、年六十八。

東宮殿下
行啓記念

勤王諸士遺墨帖人名略傳 終

明治四十三年一月三十一日印刷
明治四十三年二月三日發行



著者兼
發行者

中原邦平

東京市芝區二本榎西町二番地

印刷者

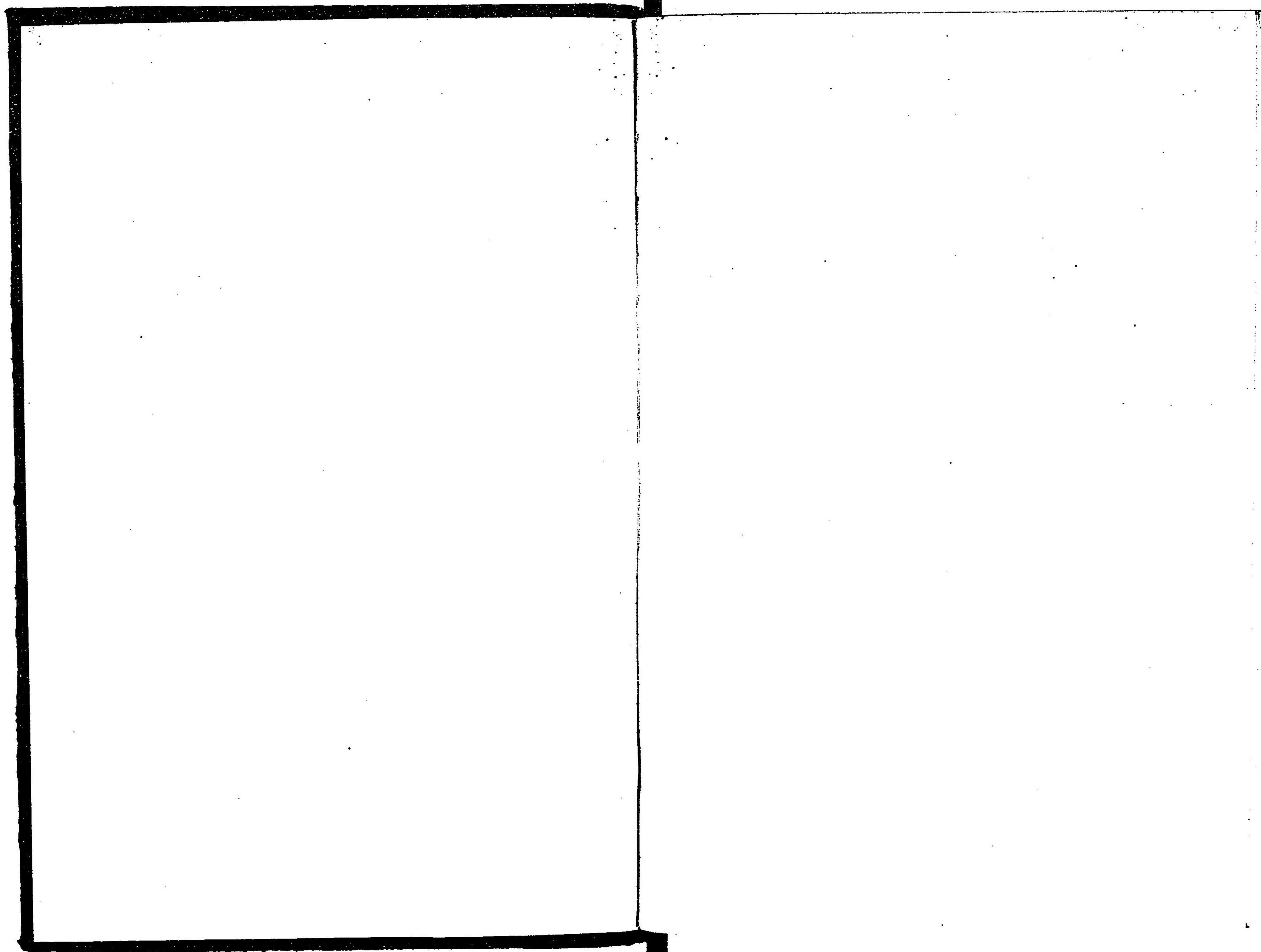
手塚猛昌

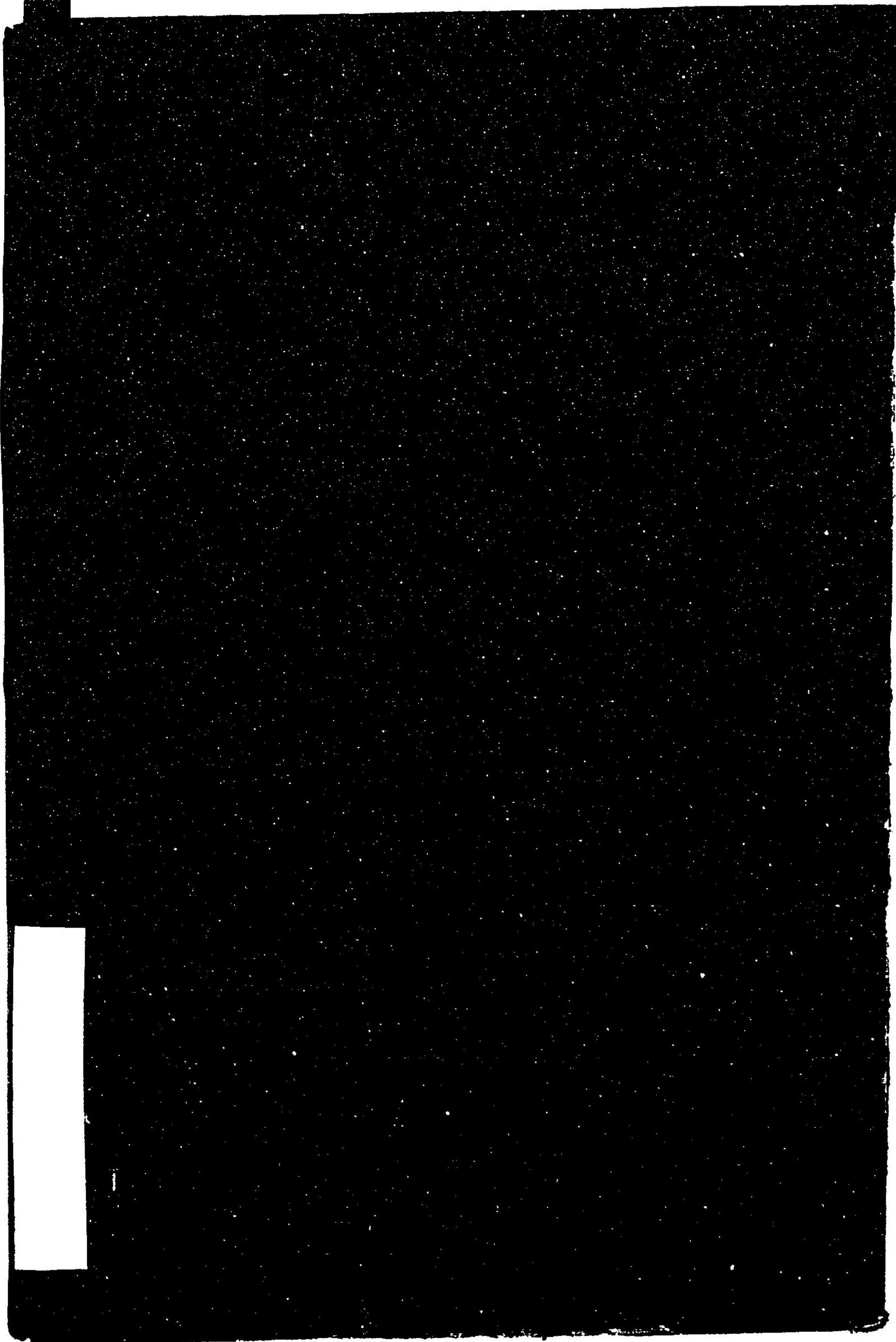
東京市京橋區錦屋町十五番地

印刷所

東洋印刷株式會社

東京市芝區愛宕町三丁目二番地





327

178

004295-000-6

327-178

勤王諸士遺墨帖人名略伝

中原 邦平/著

M43

ACE-0725



